

第5分科会

教科別の指導

算数・数学

指導・助言

草加市特別支援教育指導員

足助啓子

実践提案 支援学校

特別支援学校

算数・数学部会

活動報告 支援学級

草加市立両新田小学校

教諭 大久保直子

1 教科別の指導 算数・数学を取り巻く状況

■特別支援学校及び特別支援学級における教科別指導「算数・数学」に共通して言えることは、個々の実態把握を基に、興味・関心、生活経験を踏まえ、課題を設定していくことである。体験活動を通して数のイメージ化、数学的思考方を学び、生活に生かすことができる算数・数学であることが基本である。そのためには、ICTの活用、具体的操作活動、教材・教具の工夫と準備がさらに大切である。

■最近の傾向として、特別支援学級（特に自閉・情緒学級）においては、能力的に高い児童生徒の入級が増加している。特に算数・数学を得意とする子どもも多いが、応用力、文章題、生活に生かすことが苦手な子どもが多い。パターン化したドリル学習からの脱却、『考える算数・数学』にしていくことが重要と考える。そのためには、子ども同士のかかわり、言語能力の育成が欠かせない。

2 提案実践について

（1）考える算数、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化の実践

■複式学年（1，2，3，6年）8名の学級で、担任1人の構成である。この授業の素晴らしいところは、①手作り教材・教具の豊富さ。②ペア学習、グループ学習を取り入れた学習形態の工夫。③子ども同士のかかわりを意図的に設定した担任の「しかけ」（考える算数）である。

「しかけ」とは、課題と同じ数の教具は一つもない。課題の数を見出すまで（具体物を前に2人で考え、相談し、具体物の数を合わせる）の一連の活動がポイントになっている。

■同程度の力のある2人ペアを作り、各能力に応じた課題設定（足し算、かけ算、割合）の「計算式」を提示するのみ。課題解決の手がかりとなる教具をペアで相談させながら自分達で選び、提示された「計算式」になるお話を作る活動。ペアやグループで相談しながらどのように考え、文章題を作っていくことがいいのか、まさに「協働的な学び」の実践である。

子ども達が、夢中になって課題解決に取り組んでいる姿は、個々の能力に応じた適切な教材・教具の提示が、「個別最適な学び」と「協働的な学び」につながっている素晴らしい実践である。

（2）考える力は、言葉の力（言語能力を高める工夫が今後の課題）

■数学的な考え方や考える基本(考える算数)は、四則計算のみならず、言語能力、コミュニケーション能力の育成が重要になる。「算数」の時間のみならず、生活単元学習、自立活動の関連性も意図的に計画実践していくことが大事である。子どもにどんな力をつけたいのか、「めあて」を焦点化し、そのための手立てや方法が、魅力ある授業に繋がっていく。「考える力」を高めるためには、指導者はしゃべりすぎないことがポイントである。今後、①語彙力を高める②表現力を高める③意図的な子ども同士のかかわりなど、他教科や自立活動の組み立ても見通しを持った、意図的な取組に期待したい。

（3）「考える算数」を見事に展開した素晴らしい授業でした

■本実践は、1年から6年までの体力面、能力面、生活経験、等々が大きく違う8名の子ども達を、担任一人で子ども達一人一人に達成感を味わせた授業を展開してくれた、大久保直子先生、ありがとうございました。個性豊かな子ども達が在籍する「自閉・情緒学級」のあるべき姿のお手本となるような授業でした。とかく教師対子どもの構図になりがちですが、適切な教材・教具、ペア学習や子ども同士のかかわりを意図的に構築することで、自己肯定感や自己有用感を育てることもつながります。

多くの先生方に見てもらいたい授業でした。